

令和元年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す学校像		教育活動全体を通して、生きる力を身に付けさせ、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図る。また、ものづくり教育を通して、グローバルな時代に主体的に対応できる創造力を備え、地域や産業社会に貢献できる有能な人材の育成を目指す。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標			達成状況
<成果> ・平成30年度本校総合工学科卒業生約70%が就職(内定率100%)、30%が進学している。 ・資格指導・ものづくり競技会での活躍、様々な広報活動等により、平成31年度入学者選抜において志願先変更後の志願倍率が1.25倍であった。 ・生徒の問題行動による指導件数が少なく、頭髪・服装指導における協力体制が維持されている。 ・学校行事における生徒会活動は活発であり、部活動加入率も70%程であり、運動部・文化部と共に活発に活動している。 <課題> ・基礎学力の定着と授業や学習への取組の充実及び個々の生徒の専門性を高める指導体制の確立及び定着化が必要である。 ・体系的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人が希望する進路の実現を目指す指導の更なる充実が必要である。 ・登下校の際や校外における問題行動の未然防止に努め、生徒理解を踏まえた規範意識を育む指導を実践していく事が必要である。		個々の希望を実現するキャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、自校での進学補講等の充実を図り、国公立大学への進学を含め希望する大学への合格を目指す。 ③段階を追ったキャリア教育を通して勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率100%達成、進学希望者の合格率100%達成を目指す。			B
		個性を生かしながら伸ばす充実した教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、個々の生徒の専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への合格者を増加させ、ジュニアマイスター取得30名を目指す。 ⑥言語活動の充実を通して、コミュニケーション能力を高め、グローバル化した社会に対応できる人材を育成する。			A
		根幹となる豊かな心の育成と安全教育の推進	⑦基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑧施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑨ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道德教育の推進及び、ボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。			B
		部活動・特別活動の更なる活性化と主体性の育成	⑩部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への主体的な参加を促す。 ⑪特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。			A
		学校内外への充実した広報活動の推進	⑫開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、学校のホームページを通して地域や保護者・中学校等へ情報を発信することで、本校の特長をアピールする。 ⑬PTA行事等の保護者への周知を図り、参加を促すことによりPTA活動の活性化を図る。			A
		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、各学年で課外や補講などを実施し、個別指導を含めた丁寧な指導支援を行う。	④⑦	B	基礎学力向上のため、1・2学年で定期的に漢字や語彙力を養う課題を出しているが、全員の提出までに時間を要している。漢検受検者の増加と、合格率向上に向けて、基礎学力の底上げを図り、検定合格に向け工夫していく。
			授業でのルール及びマナーを身に付けさせるとともに、ノート等を定期的に点検し、授業に対する真摯な取り組みを習慣づけさせる。	④⑦	A	
			「話す力」「聞く力」を養うため、学年ごとにテーマを設けスピーチを実施する。	④⑥	B	
	授業の改善を目指すとともに、その研鑽に努める。		B			
	地歴	基礎学力の向上を図る。	担当者全員が授業を公開し指導方法や内容について研究協議を行い、授業の充実と改善に取り組むとともに、各種研修会等に参加し、自己研鑽に努める。	⑥	B	歴史教育を進めていく上で必要な知識として、地理的分野を引き続き取り入れ、積極的な取り組みの工夫を今後行う。
			授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。	④⑦	B	
			学習ノートを定期的に確認する。	④	A	
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	④	A	
			学習意欲を高める指導を工夫する。	④	B	
分かる授業のための指導を工夫する。			④	A		
	指導方法の工夫と研究を行う。	教材や資料を積極的に活用する。	④	A		
		IT機器を必要に応じて積極的に活用する。	④	B		

		基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。	(7)	B		
			学習ノートを定期的に確認する。	(4)	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	(4)	A		
	公民	指導方法の工夫と研究を行う。	学習意欲を高める指導を工夫する。	(4)	B	B	引き続き時事的な問題を扱い、問題意識をもって取り組ませるように、授業内容を工夫していく。
			教材や資料を積極的に活用する。	(4)	B		
			IT機器を必要に応じて積極的に活用する。	(4)	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学力向上を助けるため補習を行う。	(4)	A	A	基礎学力の向上、成績不振者の把握のために小テストを行い、さらに追試や補習を実施した。課外の形態や課題の内容の再検討が課題である。
			定期的な課題の提出や、小テスト等を利用し学習の理解度を確認する。	(4)	A		
			机間巡視を通して、学習の遅れがちな生徒を把握して補足説明を随時行う。	(4)	A		
		生徒希望に応じた学力の向上を図る。	より深い内容の学習を希望する生徒のために、課外等を実施する。	(2)	B		
	理科	基礎学力の向上を図る。	基礎学力向上のために問題演習や基本事項確認の小テストを実施し、生徒達の理解度を把握しながら個に対応した授業を進めていく。	(4)	B	B	問題演習の時間を多く確保し、基礎事項の理解・公式の活用の徹底を図った。提出物のチェックも数多く行い生徒の学習時間の確保に努めた。テスト前だけでなく少しでも普段の家庭学習を行わせることが課題である。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	学習内容と日常生活との関わりを取り入れて説明を行い、理科に対する興味・関心を深めさせ、学びへの主体的態度を身に付けさせる。	(4)	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容・説明・板書等の方法について授業担当者間で協議を行い、生徒の理解度に合わせた授業を行う。	(4)	B		
	体育	基礎体力の向上を図る。	年間を通じ授業の中で、トレーニング・補強運動を継続的に行う。	(4)	B		
			体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。 運動量をできる限り確保し体力の向上を図る。	(4)	B		
		生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	(4)(9)	A	A	体力テストやマラソン大会などへの取り組みは全体的には意欲的な部分が多く見られた。一方で生徒の運動離れ、興味関心の薄れの改善を図り、生涯スポーツへの進展に繋がれるようにする。より運動好きを育てられるような目標設定の工夫や活動の充実を図る。
		生涯を通じて健康な生活を送ることが出来る資質や能力を育てる。	保健ノートを定期的に提出させ点検し、健康についての理解を深めさせる。 社会の状況や時事についての関心を高め、教科学習に活かす。	(4)(9)	A		
	芸術	基礎技能の向上を図る。	授業を受けるマナーを定着させ、落ち着いて学習に取り組める雰囲気づくりに努める。	(4)(7)	B		
			分かる授業に努めるとともに、個別指導を充実させ、基礎技能の向上を図る。	(4)	B	B	生徒の実態に合わせた授業づくりと、基礎技能のさらなる向上に努める。 安全教育的引き続きの徹底。
		安全教育の徹底。	材料・用具類の整備と管理を確実に行うと共に、正しい使い方や片付けなどの指導を徹底する。	(7)(8)	A		

庶務	PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実にし、連携を密にする。	PTA総会等各種行事の連絡を、できるだけ早い時期に確実に、PTA会員やPTA役員に対して行い、各種行事等への参加率を高める。	⑬	B	B	・文化祭については実行委員会の協力を得て成功することができた。次回の文化祭に向けて早い段階での実行委員会の立ち上げに努力したい。 ・企業見学会についても早い段階での準備を進めていきたい。
		PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を工夫しPRする。	⑫	B		
学習指導	基礎学力の向上を図るとともに進学希望者の更なる学力の向上。	基礎学力不足の生徒に対し補習等を実施し、学力の底上げを図る。進学希望者については進学課外や出前授業へ参加させることにより、進学に対する意欲を高め、更なる学力の向上につなげる。	④	B	B	・資格取得について機械保全やフライス盤マシニングセンタなど新たな取り組みを行い、電気系については昨年度よりもさらに多くの合格者を出すことができた。 ・令和4年度からの新教育課程導入に伴う基礎力養成講座・課外・大学出前講義の再検討およびリニューアル。
	選択制を生かした学習意欲向上。	保護者との連携を密にし、生徒に卒業後の進路を考えさせ、その進路につながる選択科目を自ら選ばせることで、学習に対しての意欲を高めさせる。	④	B		
	資格取得の推進。	関係部署と緊密な連携をとり、顕彰制度の利用により生徒の資格取得への意欲を高めさせる。	⑤	A		
特別活動	生徒会の自主的な活動を促進させる。	生徒会が中心となり各種行事を行い、自主的・積極的に企画運営できるように努める。更に、何事も計画的かつ効率的な行事の遂行に努める。特に文化祭では綿密な計画と円滑な運営を行う。	⑧⑨⑪	A	A	本年度は、国体、勝工祭、マラソン大会と学校行事が立て続けにあったが、事故もなく良くできた。生徒会がより主体的に、より積極的に活動できるようになりつつある。更なる向上を目指し指導していきたい。また、部活動においても実績を残す部活が増えた。さらなる部活動の活性化を図りたい。
	ホームルーム活動を活性化させる。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともにより一層具体的な活動が行えるように努める。また、各分掌から出されるテーマをLHRに反映し効率的な学級活動を展開する。	⑧⑨	B		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になるように働きかけ、活発な部活動およびレベルアップを目指す。	⑩	A		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識の確立を図る。	基本的な授業態度の育成、学習習慣の確立、遅刻の減少を図る。(遅刻カードの活用)	⑦⑨	B	B	生徒への規範意識の向上を、集会等を通じて高める。LHRや講話等で自転車運転の危険防止、スマートフォンや通信機器のマナー、いじめ防止の教育を行い、生徒の事故・問題行動を防ぎたい。
		登校指導・昼休みの巡視を1日2名で通年実施する。また定期考査中の校外巡視の実施。	⑦	A		
		HRにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)・バイク指導、自転車点検等の実施により交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑦⑧	B		
		薬物乱用防止教室を実施する。	⑦⑧	A		
	工業人として清潔な頭髪服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	全職員で服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	⑦	B		
	学校教育全体を通じた道徳教育を推進する。	心の教育を進め、他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。また、いじめ防止および早期発見のため「生活アンケート」を利用し生徒への実態把握に努める。	⑧⑨	C		
		携帯電話の使用制限を守り、マナーある使い方を指導する。	⑦⑨	B		

進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し1年次より計画的な進路指導を行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観を育成する。	①②③	B	A	・3年間を通した進路指導計画充実 ・学年と連携しLHR等の時間を利用し早い時期からのキャリア教育の実施を図る。 ・1年次からの進路ガイドブック活用 ・地元企業との情報交換 ・全職員による面接指導の継続 ・進路決定者による下級生への体験講話の継続 ・ネットワークを活用した生徒への進路情報提供の拡充
	生徒一人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	インターンシップ(就業体験)などを通して、職業観・勤労観の形成に努める。	①②③	A		
		企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の早期合格内定率100%を目指す。	②③	A		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。	②	B		
		3年次との連絡を密にし、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。	①②③	A		
保健指導	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか商工会議所やひたちなかテクノセンター等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。	①	A	A	校内の安全・衛生と生徒・職員の健康な生活を維持するための取り組みを引き続き行っていく。
	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員を中心に全学年一斉清掃・環境整備に取り組む。また、安全点検表を利用して清掃分担ごとに月一回の点検を行い、改善すべき箇所がある場合には迅速に対応する。	⑧	A		
	生命尊重に関する教育の充実。	全学年を対象に講話を実施する。1年次を対象に性教育・AED講習等、専門講師を迎えて実施する。	⑨	A		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。	④⑤	B	B	「ミニトシヨ！」を前後期とも2回ずつ実施できた。図書委員の活動として定着した。 一方、広報活動及び栄光幼稚園での読み聞かせは実施することが出来なかった。 夏期に行われた水戸地区の生徒図書委員会研修会の運営に携わり、委員の生徒が活躍できた。生徒も充実感達成感を味わえたようであった。 視聴覚室は機材が更新されたことにより、授業での利用が増えた。
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。	④⑤	B		
		図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。	⑨	A		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。	⑪⑫	C		
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。	⑩⑪	B		
		自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	①②③	B		
1年次	基礎的・基本的な知識・技術・技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業に臨ませる。提出物の期限を守らせる。資格・検定試験に意欲的に取り組ませる。家庭学習を習慣化する。	③④⑤	B	B	・落ち着いた授業に取り組めない生徒がいるので、集中して話を聞く姿勢を身に付けさせる。 ・当たり前のことを当たり前に行えるようにする。 ・修学旅行もあり、時間の意識、報告連絡相談を徹底させ、協調性を身に付けさせる。
	基本的生活習慣を確立させ健全な高校生活を送らせる。	時間を守り、自主的に挨拶・返事ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑦⑨	B		
	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせるとともに、集団生活の中で責任ある行動がとれるようにする。自分の存在意義を認識させる。部活動に積極的に参加する。	⑨⑩⑪	B		

2年次	健康管理に心がけ、何事にも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	自己管理能力を養う。規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを認識させる。毎日の清掃と教室の整理整頓を徹底させる。	⑦	B	B	・欠席の多い生徒が、多く、情報リテラシーの欠如は、見られる。 ・学校生活全般にこれまで以上に積極的に取り組ませる。 ・進路について自主的に考え行動し、納得のいく決定が出来るようにサポートしていく
		高校生活における身体的・心理的な安全を最優先させる。そのため保護者との連携をとる。	⑧⑬	A		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身に付けさせる。	授業第一を徹底し基礎学力を身に付けさせ、知識・技術・技能の習得を資格取得を通じて行う。期限の厳守。	④⑤	B		
		部活動や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、委員会や係の仕事・修学旅行・野球応援等を通じて学校やクラスへの帰属意識を持たせる。	⑨⑩⑪	A		
		インターンシップ・工業現場実習・企業見学等を通して職業意識を持たせ、進路決定のの準備を始めさせる。	①③⑥	B		
3年次	一人一人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、昨年度の適性検査をもとに、生徒に自分自身の適性を冷静に判断させ、その能力・適性に応じた進路指導を推し進める。	①②③	A	A	・年度当初から進路関係のアンケートとその結果のフィードバックを多く行うことで生徒は自己の現状を把握し、進路決定に真摯に取り組むことができた。 ・職員全体で進路面接指導・支援する体制は今後も継続してほしい。 ・夏期休業中の業者やハローワークによる個別やグループ面接練習は、定期的にも生徒の進路意識の刺激になった。
		保護者と密なる連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。	⑦⑧	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、進路希望に応じた学習を推し進めることを通じて基礎力の充実を図る。	④⑥	A		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようたくましさ育成する。	校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。	⑦⑨	B		
		挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。	⑨⑩	B		
	学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	道徳教育や細やかな生徒指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、倫理観や規範意識を高めるとともに、いじめなど問題行動の未然防止に努める。	⑦⑨		
情報教育と国際理解教育の推進を図る。		授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。	④⑥	B		
地域の中学校との連携を図る。		地域の中学校との交流事業や積極的な広報活動を通じて中学校との連携を図る。	⑫	A		
地元企業や大学等との連携を推進する。		地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。	①②③	A		

※評価基準： A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない